

# ジェイアールバス東北本部

第13号

2021年11月8日

〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡1-4-3 JR東労組仙台地方本部内  
NTT:022-297-0155 JR:031-3981~3983  
発責：佐藤 秀一 編集：情宣部

## 申3号 「2021年度年末手当に関する申し入れ」について 趣旨説明を行う！

ジェイアールバス東北本部は2021年11月8日、申3号「2021年度年末手当に関する申し入れ」について趣旨説明を行いました。主な議論経過は以下の通りです。

### 【組合】

- ✓新型コロナウイルス感染症の波が繰り返される中、全組合・社員は公共交通機関という社会インフラとしての使命を果たしている。
- ✓社員は現状の会社経営状況を認識し、聖域なきコストダウンなどの様々な会社施策に協力し奮闘している。
- ✓定期昇給のカットや夏季手当の減額に加え、多方面にわたる物価上昇により生活が非常に苦しくなっている。
- ✓相次ぐ退職者により要員不足が深刻となりながらも、組合員・社員が助勤・転勤等の施策に協力することで会社の持続的経営を支えている。
- ✓上半期の業績は赤字ではあるものの、ワクチン接種がすすみ緊急事態宣言等が前面解除となったことで、路線便の乗車人員や貸切業務の件数が徐々に増えるといった明るい兆しも見えている。
- ✓コロナ後の会社発展の原動力に資する人材を確保するためには、「人」への積極的な投資を行うことでモチベーションを向上させ、これ以上の人材流出を防がなければならない。

### 【会社】

- 上半期の営業利益は、マイナス5.3億である。対2020年度では上回っているが、コロナの影響を受ける前の2019年度を見なければならない。5割程度しか回復していない。
- 要員不足によって人件費は減った。他にも車両の更新を控えるなどの施策を行うことで費用を抑えてきたが、固定費の比率が大きく3割減にしかっていない。
- 社員の頑張りには応えたいが、期末手当は業績が反映される。上半期の状況で判断しなければならないが、下半期の見通しもふまえていく。
- 10月は人流が増えたが、それでも中長距離の便は5割、古川線など近距離で7割程度である。マイカーでの移動が主体となっており、例年だとピークとなる十和田湖周辺も賑わいに欠けた。
- 海外ではコロナの第6波、7波が伝えられており、まだまだ安心はできない。
- 魅力ある会社とするために努力はする。協力を得ながら乗り越えていく。
- 今の段階では何とも言えない。下期の業績も考えに入れ、これから検討していく。

今こそ全職場・全組合員の声を結集しよう！